



センターニュースをお読みの皆様へ

理事長 山川 常雄

「思いやりの心を集める福祉活動は、重症心身障害児者を守る目的であり、たとえどんなに重度の障害児者であっても、人としての尊厳に重点を置く療育を実践することを、私達関係者は忘れてはならない」という初代園長小林提樹先生の教えを、心にとめて56年間勤めてきました。

私は、常に島田療育センターで日々生活を送っている利用者の皆様とご家族の気持を大切にすることを自らの使命に精進してまいりました。それに加え今後は、院長をはじめ多くの職員とともに、人間関係をよ

り良くするために、お互いの「和」を尊び、近隣施設との連携を図り、在宅障害児者へより質の高い福祉サービスの提供等、適正かつ安定した運営のために日々研鑽して行きたいと思っております。



開設当時の島田療育園

第43回日本重症心身障害福祉協会 東日本施設協議会 報告

平成28年11月10日（木）、11日（金）の2日間、神奈川県横浜市新横浜国際ホテルに於いて第43回日本重症心身障害福祉協会東日本施設協議会が開催され、東日本の58施設、約148名が参加しました。会議に際し冒頭、神奈川県重症心身障害児者協議会会長ソレイユ川崎施設長江川文誠氏より、本年7月に障害者支援施設で起きた痛ましい事件を受けて神奈川県では「ともに生きる社会かながわ憲章」を策定したお話が有りました。

参考

「ともに生きる社会かながわ憲章」 - 神奈川県ホームページ
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f535463/>

2日間のプログラムは以下の通りとなっています。

講演・調査発表

- 重症心身障害児と感染症・ワクチンの話題を中心に
- 重症心身障害児施設における死亡事故例の調査について
- 相模原療育園で地域医療研修を行った医師の意識調査

報告協議事項

- 日本重症心身障害福祉協会東日本施設協議会会則の改訂
- 迫られる児者一体運用の見直し
- 神奈川県重症心身障害児者協議会の成り立ちとヒヤリハット集の配布のお知らせ

議事・協議・報告

- 成人病の管理について
- 防犯対策について

- ストレスチェック後の対応について
- 障害児等施設入院管理料において①NST加算が取れない、②呼吸ケアチーム加算が取れない事の問題
- 職員の倫理研修や虐待研修等の各施設の実施状況
- 職員家族が感染症に罹患した場合の職員の出勤の可否、休暇期間について
- 東西日本施設協議会同士の関係はどうなっているか、全国の協議会との関係は
- 医療安全で用いている分析方法は何か、医療安全分野に専任者を置いているか
- 実習生に対する感染症チェック・対策はどの程度行っているか
- 医療度の高い利用者の避難訓練参加について
- 知的障害で医療的ケアの必要な方のショートニーズへの対応

以上、議題が多く、すべてを議論することはできませんでした。

シンポジウム

- 様々な社会資源を利用して地域で生きる
- 医療的ケアの必要な重症児の通所等“マザー湘南の取り組み”
- 重症心身障害者・重度重複障害者の地域社会での暮らしを支える
- 重症児専門のレスパイト病棟を開設して
- 多機能拠点“郷”

このシンポジウムでは神奈川県の入所施設が少ない為、在宅支援として様々な取組み、工夫をされている部分のご紹介がありました。

昨今では協議する内容が多い為、全てにおいてじっくり話し合う事はできませんが、共通の問題認識が図れる良い協議会となりました。次回は29年秋、北海道ブロック札幌の開催となります。

10月の行事・イベント特集

10月に行われた各病棟行事、イベントの情報をお知らせいたします。
(編集委員 高橋 節夫)

秋のお楽しみ会
1病棟

10月27日(木)に実施、参加総数91名。利用者様・ご家族・分教室教員・職員が一堂に会し、散策やミニゲームを楽しみました。中沢池公園内では利用者様6~7名のグループに分かれてウォークラリーを行いました。厚生棟ではテーマ別の感覚体験の部屋を考案し、各部屋を巡りながら賑やかに過ごしたようです。



大遠足
2病棟

10月4日(火)は第1班、参加総数58名。10月18日(火)は第2班、参加総数56名。第1班は「のんびりコース」として、午前中は厚生棟でDVD鑑賞をしました。午後はセンター内・中沢池公園内をウォークラリーで楽しみました。第2班は「はりきりコース」として、バス遠足でした。場所は『八王子市由木中央市民センター』です。体育館や音楽室で盛り上がりました。



大遠足
3病棟(東棟)

10月7日(金)に実施、参加総数は46名。昨年よりも遠い場所に…ということで、バス遠足として『府中市郷土の森博物館』へ出かけました。利用者様・ご家族・分教室教員・職員で、博物館を見学したり、広々とした公園内の自然に触れながらレクリエーションを楽しみました。公園内のあちこちで笑い声や歓声が聞かれました。



大遠足
5病棟

10月12日(水)に実施、参加総数は79名。バスドライブが大好きな利用者様が多いため、午前中は1時間30分程度の近隣の周遊ドライブを楽しみました。午後は厚生棟にて、ダンス&演劇のパフォーマンスを鑑賞しました。出演チームは5病棟ではお馴染みの「レインボーズ」の皆様でした。会場は、笑顔と拍手でとても盛り上がっていました。



大遠足
6病棟

10月13日(木)は第1班、参加総数52名。10月20日(木)は第2班、参加総数46名。第1班はバスドライブを楽しみ、広い公園を散策したりして、ゆったり過ごしました。場所は『昭和記念公園』でした。第2班は体力を考慮して、ミニドライブと公園散策を実施しました。場所は『鶴牧西公園』でした。どちらの班も秋の自然を満喫出来ました。



大遠足
7病棟(東棟)

10月6日(木)に実施、参加総数は44名。中沢池公園と厚生棟・けやき広場を中心に実施しました。秋の公園内をのんびり散策し、利用者様とご家族・職員でウォークラリーを楽しみました。各ポイントには、チームで楽しめる工夫が盛りだくさんでした。4つのチームに分かれ、団結力でがんばりました。



駒澤大学高校吹奏楽部
ふれあいコンサート

10月23日(日)の午後、当センターグラウンドを会場にして、恒例の「ふれあいコンサート」を開催しました。吹奏楽部員95名と先生方4名の皆様のご協力により、素晴らしいコンサートとなりました。顧問の吉野先生による進行と指揮で、一体感のある駒澤サウンドがグラウンドに響き渡りました。曲の間には、歌とダンスのパフォーマンスも登場し、利用者様・職員から大きな拍手が送られました。吹奏楽部は創部50周年ということで、当センターを代表して木実谷院長より「感謝状」と「写真入り額」が送られました。今後も、島田療育センターの利用者様と駒澤大学高校吹奏楽部のつながりを大切にしていきたいと思っております。



外来利用者様への満足度調査

現在、入所利用者様中心のサービスの他に地域ニーズに応えた、外来診療・リハビリ・地域支援等のサービスもセンター業務の大きな比重を占めています。今後の外来サービスの質的向上に役立てることを目的に、6月、センターとして初めて外来利用者様への満足度調査を経営企画室の提案により行いました。

センターの「良い点」「改善すべき点」については、どちらも診療に関する内容が最も多くみられました。良い点では長期的に利用している方が多く、医師やリハビリスタッフとの信頼関係がとても良い事でした。一方、予約の取りにくさや待ち時間、リハビリの頻度など、当

センターの複雑なシステムが原因と考えられる意見が多くみられ、改善すべき点のご意見となりました。また、各職種の対応面については、全般的には高い評価を頂きましたが、接遇に関する改善点の意見もありますので、センター全体で取り組んでいきたいと思っております。トイレや駐車場など施設整備面については、すぐに対応・改善できないこともあります。利用者様からのご意見を参考にして、案内や利用方法の工夫に取り組んでいきたいと思っております。

今回のアンケート結果は、近く外来にて公開を予定しています。今後とも、丁寧な情報提供と配慮に心がけ、利用者様からのご意見を頂きながらより良い外来運営を行っていきたく思います。

(外来療育長 舟田 知代)

東京都共同募金会からの配分金による 食器洗浄機の更新

この度、社会福祉法人 東京都共同募金会から平成28年度の配分金3,140,000円の交付を受けて、コンベアタイプ食器洗浄機を更新させて頂く事が出来ました。食器洗浄機は購入後17年に亘り、入所利用者様の3食、通所利用者様の昼の食器洗浄をフル稼働で行ってまいりました。この度老朽化による買え替えが必須となり、非常に高額な事から東京都共同募金会に申請し、配分を受ける事が出来ました。更新により作業効率も上がり、職員の負担軽減につながっております。社会福祉法人 東京都共同募金会をはじめ、ご協力を賜りました関係者の皆様に感謝申し上げます。

(事務部次長 森久保 真由美)



総合防災訓練を実施

今年も自治会・センターの総合防災訓練が行われ、3部構成の訓練内容を実施しました。

- ①島田療育センター紹介DVD (施設・設備編、入所支援編)
- ②センター内見学(外来、1・5病棟を中心に見学)
- ③救助犬の活動紹介と実演

山王下自治会からは29名と多くの参加を頂き、総勢約50名での訓練となりました。今年の総合訓練の目玉は、救助犬の活動紹介と実演です。講師の原田先生(救助犬指導者)、竹迫さん(センター職員)、救助犬・夢知に協力を頂き、始めに竹迫さんから紙芝居とパワーポイントによる救助犬の紹介、原田先生と夢知による救助犬の基本行動の実演、最後に被災地を想定した救助活動(ハシゴ渡り、ボックス内の救助者を発見する、など)を見せてくれて、会場から大きな拍手をもらい終了しました。夢知と参加された皆様、お疲れ様でした。



(防災危機管理委員会 療育部担当 杉田 友春)

院内感染防止全体研修を実施

10月24日、11月11日の2日間、厚生棟研修室で院内感染防止全体研修会が開催されました。①感染性胃腸炎とは、②感染性胃腸炎対策、③手指から始まる感染対策という内容で、2日間の参加人数は267名でした。今回、初めての試みとして研修会に参加できなかった人を対象にランチオンセミナーで研修会のDVD放映も行う予定です。これからの季節、感染性胃腸炎だけでなくインフルエンザなどの流行期に入ります。標準予防策を実践し感染防止に努めましょう！



(編集委員 中野 智子)

自衛消防操法大会で準優勝

今回、看護師の渡部さん、大林さんと共に大会に出場しました。初めは右も左もわからず、本当に出場できるかどうか不安でしたが、少しずつ練習を重ねてなんとか大会を迎えることができました。本番は緊張しましたが、練習よりうまくできた気がしました。結果は自分達もビックリな準優勝でとてもうれしかったです。心強いメンバーと臨むことができ本当によい経験をさせて頂きました。火災はもちろん起きない方がいいですが、何かの時には今回の経験を活かしたいと思っております。



(事務員 伊藤 照子)

第42回 日本重症心身障害学会学術集会

9月16・17日、第42回日本重症心身障害学会学術集会が北海道で開催されました。今回、私たちは「自己のエンディングの視点から利用者のエンドオブライフケアを考える」という研究テーマで発表を行いました。発表後は聴衆からの反響も大きく、私にとっても貴重な体験となりました。また、多くの研究の中、在宅生活重症児者の割合が増えており、様々な問題や課題があることがわかり、今後支援のあり方を検討し、求められる支援を目指していきたいと思いました。



(看護師 上山 和恵)

第27回 重症心身障害療育学会学術集会

第27回重症心身障害療育学会学術集会が熊本県で行われ、私達は「睡眠リズムを整えるふれあい遊びの取り組み」について発表しました。他の施設の方とも意見交換ができ貴重な経験となりました。また、震災から当時の状況報告が行われ、地震発生からその後のケアや問題点（物資管理、職員の心理的ケア等）について知ることができました。病棟・当センターの防災に反映していかなければならないと感じました。他施設の発表からもたくさん学ぶことができたので、今後は自身のケアに活かしていきたいです。



(保育士 伊藤 七海)

福祉フェスタ2016に参加

～10月16日(日)に多摩市総合福祉センターにて～

「福祉フェスタ2016」に、当センター日中活動支援部署「ほっとステーション」が参加してきました。持参した入所利用者手作りの和紙に、地域子どもたちが思い思いのデコレーションをしてカードに仕上げていきました。「お父さんのお誕生日プレゼントにします。」と嬉しそうに話した女の子。受け取ったお父さんの笑顔が浮かびますね。

(療育長 岩井 理)



おしらせコーナー



心理相談室講演会

怒りのコントロールが難しい子どもの理解と支援
—家庭や学校でできるアンガーマネジメント—

日時 平成29年1月14日(土) 10:00～12:30

場所 島田療育センター厚生棟

講師 本田恵子氏(早稲田大学教育学部教授)

第16回公開シンポジウム

日時 平成29年2月12日(日) 13:00～16:30

場所 島田療育センター厚生棟

基調講演 松為信雄氏(文京学院大学人間学部客員教授)

詳細・お申込みはホームページにてご案内します。

shot! ひと息

ほっとステーション 「あき」



実習生受入状況

平成28年10月～11月

種別	人数	種別	人数
看護師	49名	作業療法士	3名
保育士	3名	心理判定員	7名
介護福祉士	4名	歯科衛生士	4名

※介護等体験実習の数は含みません

